

9月19日は 松山高校 開校記念日です。

平成30年9月19日

本日9月19日は、松山高校の39回目の創立記念日です。来年度は40周年記念となります。記念日を迎えるにあたり、創立当初の松山高校に思いを馳せてみましょう。

(1) 松山高校の成り立ち

松山高校としては今年度末で満39歳を迎えるわけですが、旧松山町の住民の方々にとってはもっと長い歴史の延長上にある高校です。

さかのぼれば、昭和7年(1932)松山女子専修学校を皮切りに、昭和16年(1941)松山実科高等女学校、昭和18年(1943)松山高等女学校、昭和23年(1948)宮城県古川女子高等学校松山分校定時制、昭和42年(1967)宮城県古川女子高等学校松山分校全日制を経て、そうして、昭和55年(1980)宮城県松山高等学校となります。つまり、直接的には、古川女子高校松山分校から独立してできたのが現在の松山高校ということになります。

一口に独立というと話は簡単に聞こえますが、旧松山町にとっては、自分たちの町に独立した高校を作るというのは長年の悲願だったのです。「自分たちの町にも高校を！」と願う多くの関係者の運動の結果、昭和54年、独立高校の設置が県議会で決定されたわけですが、その当時、町では花火を揚げて、町民皆でお祝いしたそうです。

こうして誕生した松山高校ですから、今でも地元の皆さんから多くの期待が寄せられて



▲知事山本壮一郎氏記念植樹
町木(くろ松)

ているわけです。松山高校は、そこで日々学んでいる「私たち生徒の学校」とすると同時に、地元の人たちの「おらほの学校」でもあるのです。



(2) 開校記念日の理由

松山高校が開校したのは、昭和55年4月1日です。しかしながら、本校の開校記念日は9月19日です。これには理由があるのです。その理由について、初代校長の飯村富也先生が『創立20周年記念誌』の中で次のように述べられています。

《誕生祝いはふるさとの人々と》 初代校長 飯村富也

日本の新設校の開校日は、ほとんど例外なく学年が始まる4月初旬のある日だと思います。ところが、この日はその学校の実質的な誕生日ではあっても、関係者一同が公的にお祝いする誕生日とは必ずしも一致しません。通常、この後者の方が開校《創立》記念日といわれるもののようです。

多くの学校の開校記念日が、どのようなゆえんがあって制定されたのか、私にはよく分かりません。(中略)

是非、意義があり、忘れられない開校記念日を設定したい。これが赴任当初からの私の念願でした。全てこれからという新生の学校には、自ら拠り所とするものはありません。何にそれを求めようか、私は考えあぐねました。そして、驚くほど身近にそれを見つけたのです。開校後十日目に、校地隣接の稲荷神社で春の例祭が催されました。そこで、お祭りとお開校とをともに歓び合う人々に接し、9月19日の秋の例大祭は尚更に、と思い描くようになったのでした。やがて職員や関係各位の賛意を得て、式典への準備に入りました。以下は式典挨拶からです。「この日を選んだのは、もちろん宗教的意図によるものではありません。——お稲荷さんは、茂庭公とともにこの城址に遷って以来280有余年、もののふが必勝祈願や勝利報告をして、また里人が五穀豊穡を祈り、幸せを感謝して、いわばこの土地の生活の中心となり、人々の心の拠り所となってきました。そして今、城址に立つわが松山高校もその歴史の流れに仲間入りさせて頂くのです。——開校記念日がふるさととの連帯によって、またそれが通学地域全体に波紋のように広がることによって、いっそう忘れがたい日となりますよう念じます。」



いかがでしたか。創立当時の生徒（皆さんの先輩たちです）や、地域の人々の思いを想像しながら、私たちも年に一度の創立記念日を大切に過ごしましょう。